

くらしと震災^{しんさい} 学習ノート



1995.1.17

CONTENTS

くらしと震災^{しんさい}／人と防災未来センターの震災資料^{しんさい}

地震 ^{じしん} の発生	1
地震 ^{じしん} に備える	3
被災地 ^{ひさいち} の生活	5
仮住まい	7
活力 ^{と もど} を取り戻す	9

ぼくの わたしの くらしと災害 11

阪神・淡路大震災^{はんしん あわじ だいしんさい}の被害^{ひがい}



くらしと震災

毎日、家や学校や地域で暮らすなかで、
地震は突然起こり、
大きな被害が発生します。

壊れた家やまちは復興しても、
震災があったことや、

親しい人が亡くなったり、
平穏な生活が失われたりしたことの
悲しみは残ります。

そして、震災を忘れないことは、
これからの防災・減災のために
いま何が大切か、
気づききっかけになります。

震災資料や震災体験談は、
いまとこれからのくらしを見つめ、
考えるための手助けとなります。

このノートは「くらしと震災」について、
阪神・淡路大震災当時の状況と
震災資料を通じて学ぶものです。

人と防災未来センターの 震災資料



人と防災未来センターは2002年4月に開館しました。

資料室では、震災後に被災地で集められたモノや紙や写真や
映像（一次資料）と、防災・減災について学べる図書やDVDな
ど（二次資料）を集め、公開しています。

このノートでは一次資料のモノ資料や写真資料を用いて、
阪神・淡路大震災の被災状況や復旧・復興の過程を紹介します。

※紹介した所蔵資料には、調査先番号-資料番号 を付けています。

一次資料 総数 約 200,000 点

阪神・淡路大震災の被災状況を物語るもの
被災地の復旧・復興過程において使用・作成されたもの
※収蔵庫に保管されています。閲覧には申請が必要です。



モノ 資料

5時46分で止まった時計、
ボランティア基地や仮設住宅の看板など



紙 資料

被災者の日記や手記、避難所の日誌・チラシ、
ボランティアの活動記録など



写真 資料

倒壊した建物や被災したまちの風景、
仮設住宅、救援やボランティア活動の様子など



映像・音声 資料

被災者が撮影した震災時の映像、
地元コミュニティFM局の放送

二次資料 総数 約 56,000 点

阪神・淡路大震災その他の災害・防災関連の刊行物
※資料室内に開架しています。どなたでも自由に閲覧できます。
(貸出は一部映像資料のみ)



図書 資料

阪神・淡路大震災関連資料、災害・防災関連図書、
地域防災計画書、各種写真集、震災関連一般図書など



雑誌 資料

学会誌、自然・社会科学系雑誌、
防災関連雑誌など



視聴覚 資料

阪神・淡路大震災や防災関連の映像資料、
音楽や音声が収められたCD、CD-ROMなど



その他 資料

地図、リーフレットや広報誌、
防災計画ガイドラインなど



地震の発生



地震はある日突然起こって、人々のくらしを大きく変えてしまいます。暴風、豪雨、洪水などは、事前にある程度予測して備えることができますが、地震はいつどこで起こるか、はっきりとはわかりません。目に見えない大地の動きや地震の起こるしくみを学ぶとともに、揺れを感じたときの身の守り方についても考えておきましょう。



地震調査研究推進本部HP『地震がわかる』(2014)をもとに作成

プレートの動きと地震

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤(プレート)で覆われています。日本列島の太平洋側は、プレートの境界にあたります。海のプレート(太平洋プレート、フィリピン海プレート)は年間数cm程度の速さで日本列島に近づき、陸のプレート(北米プレート、ユーラシアプレート)の下に沈み込んでいます。

このようなプレートの動きによってプレート境界やその周辺の岩盤に巨大なひずみが蓄積されるため、日本では多くの地震が起こります。

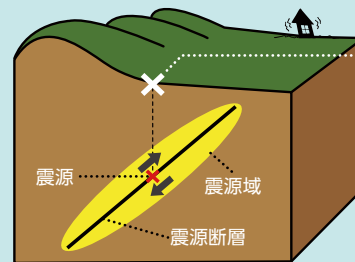
日本列島やその周辺で発生する地震は、発生する場所によって「海溝型地震」と「内陸地震(陸域の浅い地震)」に大別されます。海溝型地震にはさらに「プレート間地震(プレート境界地震)」と「海洋プレート内地震」があります。

震源と震源域

地震は、地下の岩盤に力加わり、その力に岩盤が耐えきれなくなったときに起こる破壊現象です。一般に、その結果生じる地表での揺れそのものを地震と呼ぶこともあります。

「震源」は、この破壊が最初に生じた地下の地点のことをいいます。震源で発生した破壊が周囲へ広がった領域のことを「震源域」といいます。地震のエネルギーはこの領域から発生します。

2 震源の真上の地表の位置は何というだろう?



震源等の模式図

地震調査研究推進本部HP『地震がわかる』(2014)をもとに作成

地震を知らせるしくみ

地震が発生すると、震源から地震波が地表に伝わります。地震波にはP波(Primary Wave)とS波(Secondary Wave)があり、P波の方がS波より速く伝わる性質があります。

2007年10月から気象庁が実施している、各地で生じる強い揺れを直前に知らせる緊急地震速報は、この地震波の性質の違いが利用されています。

1 阪神・淡路大震災を引き起こした地震の名称は何だろう?

それはどこで起こるタイプであったか? 正しいものを○で囲もう。

- ① プレート間地震(プレート境界地震)
- ② 海洋プレート内地震
- ③ 内陸地震(陸域の浅い地震)

3 緊急地震速報は、いつ発表されるだろう? 正しいものを○で囲もう。

- ① P波が来た直後
- ② S波が来た直後

家の中で緊急地震速報を聞いたら、あなたは どうする?



地震の発生



3601171-001049



淡路島で地表に現れた野島断層の様子(1995年/北淡町※現淡路市)

プレートの動きと地震

大きな地震の揺れは人的・物的被害を引き起こします。

平成7年(1995年)兵庫県南部地震は、1月17日の午前5時46分に発生しました。内陸の活断層(六甲・淡路島断層帯)に力がたまり、ずれ動いて生じた地震でした。都市機能が集中した地域の近くで発生したため大きな被害が生じました。兵庫県南部地震によって生じたこの災害を「阪神・淡路大震災」といいます。

1

平成7年(1995年)兵庫県南部地震

こたえ ③ 内陸地震(陸域の浅い地震)

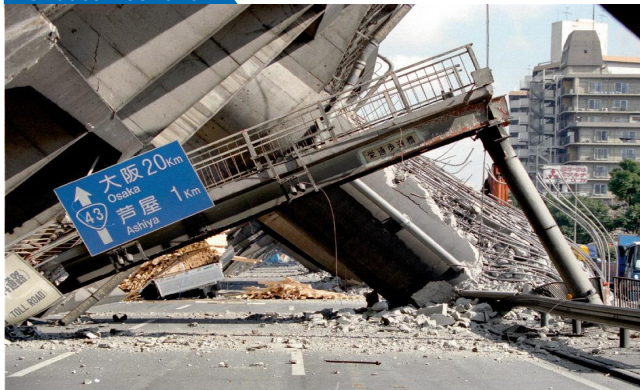


9000003-001022



火災で被害を受けた菅原市場(1995年3月/神戸市長田区)

3200091-002010



倒壊した阪神高速道路(1995年1月/神戸市東灘区)

震源と震源域

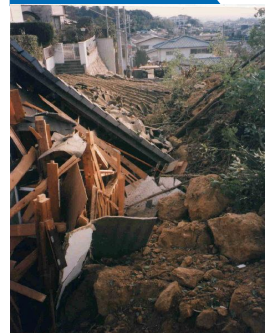
震源までの距離は、観測所の地震計で記録されたP波とS波の到着時間の差(初期微動継続時間)をもとに求められます。3地点以上での地震観測記録を用いて、震源、震央の位置や震源の深さも計算されます。

兵庫県南部地震の震源の位置は、北緯34度36分、東経135度02分(淡路島北部)、深さ16kmの地点、地震の規模(エネルギーの大きさ)はマグニチュード7.3でした。

神戸、阪神、淡路地域が特に強い揺れに見舞われ、震度(地表での揺れの強さ)は、気象庁の現地調査の結果、神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、淡路島の北淡町、一宮町、津名町(現淡路市)の一部で震度7を記録しました。

古い木造家屋を中心に多数の建物が倒壊し、火災の発生によっても大きな被害が生じました。高速道路の倒壊や地すりも発生しました。

1200248-000001



仁川の地すべり(1995年1月/西宮市)

2

震央

こたえ 震央は、緯度と経度で示されます。

地震を知らせるしくみ

緊急地震速報はP波を観測してから、主に強い揺れをもたらすS波の到達時刻や規模を予測して、できる限り素早く知らせる情報です。まず、震源に近い地震計がP波をキャッチすると、気象庁にデータが転送されます。ここで震源や規模、予想される地域と震度が自動計算され、テレビやラジオ、携帯電話、防災行政無線などで緊急地震速報として伝達されます。

速報が流れてからS波が到達するまでの数秒から数十秒の間に、自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、エレベーターを制御したり、ガスや電気の警戒体制を整えたり、とっさの対応に活用されています。ただし、震源に近い場所では緊急地震速報がS波の到達に間に合わない時があります。

緊急地震速報が流れたときにどう行動すればよいか、日頃から考えておきましょう。

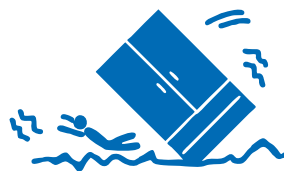
3

① P波が来た直後

こたえ (例) 机の下にもぐる
倒れそうな家具から離れる
家にいる人に大声で知らせる
など



地震に備える



地震はいつ起こるかわかりません。その時、自分がどこにいるかわかりません。家の中にいるとき、学校にいるとき、電車に乗って出かけているとき、サッカー場や映画館にいるとき、とっさに安全な場所へ動けるでしょうか。まずは、大きな地震で生じることを過去の例から知り、想像し、自分のくらしを点検してみましょう。

家で備える

毎日の生活で、あなたはどこにいる時間が長いでしょうか。学校にいる時間は一日の約3割です。通学時間や外で遊んでいる時間もありますが、自分の家の中にいる時間は寝ている時間も合わせると一日の半分以上です。部屋の中に、地震が起こると危ないものはありませんか？

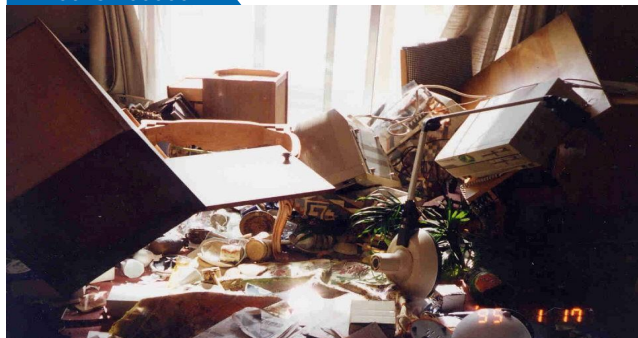
1

阪神・淡路大震災で、建物の中にいた人々のこわかったことは何だろう？

思いつくことを書いてみよう。

あなたならどう備える？

1200252-000004



阪神・淡路大震災直後の室内の様子(1995年1月17日/芦屋市)

地域で備える

地震の揺れに強い家にするなど家の安全だけでなく、暮らしている地域の安全も、日頃から考え、備えなければなりません。もしも大きな地震が起これば、家のまわりや学校のまわりや普段通る道には、危ない場所はありませんか？

2

阪神・淡路大震災で全壊・半壊の被害を受けた建物の数と世帯数は？
おおよそ正しいものを○で囲もう。

【建物棟数】

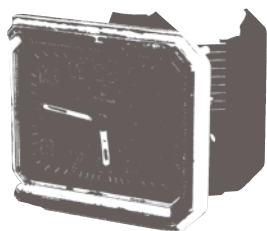
①10万棟 ②25万棟 ③50万棟

【世帯数】

①26万世帯 ②36万世帯 ③46万世帯

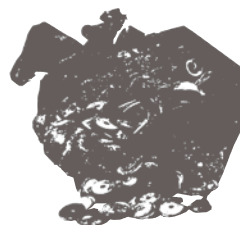
3

当時のモノから震災について考えてみよう



これは何だろう？

どこにあった？



これは何だろう？

なぜ 人と防災未来センターに保管されているのかな？

じしん 地震に備える



家で備える

毎日のくらしでは、家の中にいることがほとんどです。阪神・淡路大震災では、家が壊れなくても、部屋の中ではテレビが動き、タンスや本棚などの家具が倒れ、食器棚から食器が飛び出し、窓ガラスが割れるなどの被害もありました。地震でケガをしないためには、自分の暮らす家などの建物の室内で、あらかじめ安全対策を考えておくことが大切です。

家そのものを耐震化するほか、例えば、揺れで落ちたり倒れたりするかもしれない家具を確認し、向きや置き場所を工夫する、動かないように固定するなどの対策があります。実際に家の中をチェックし、気づいた点を家族と話し合ってみましょう。

1 こたえ (例)

- ・電気がつかなくて暗い
→懐中電灯を用意する
- ・閉じ込められて出られない
→笛を用意する
部屋のドアを開けておく
- ・家具が倒れてきた
→家具を金具やつかえ棒で固定する
家具の置き場所・向きを変える
- ・ガラスや鏡が割れた
→ガラス飛散防止のフィルムを貼る
カーテンを閉めておく
履物を用意しておく

地域で備える

阪神・淡路大震災では、木造家屋や大きなビルや高速道路、鉄道の駅や高架橋などが損壊しました。建物の全壊・半壊は24万9,180棟に及び、このため多数の人的被害が生じました。

火災は293件発生しました。あまりにも多くの火災が同時に発生したことなどから、消火が追いつかず、広い範囲で延焼した地域もありました。地域の人々がバケツリレーで水を運んだ消火活動も見られました。

安全に暮らすための備えは、近所で危ない場所はないか、避難場所はどこか、食料や物資を備蓄できているか、独りで避難できないお年寄り

2200187-000001



甲南本通商店街付近の被災状況
(1995年/神戸市東灘区)

2 こたえ

- 【全壊・半壊の建物棟数】 ②25万棟
- 【全壊・半壊の世帯数】 ③46万世帯

昭和56年(1981年)に建築基準法施行令が改正され、耐震基準が強化されました。阪神・淡路大震災では、それ以前に建てられた建築物に被害が集中しました。

3300230-001001

ヘアーショップマツナカ/
地震で壊れた目覚まし時計



4700349-001002

大貫計一氏
(元本家オランダ館館長)/
溶けた硬貨(缶入り)



- こたえ ・(5:46で止まった)目覚まし時計
- ・(壊れた)部屋のなか

■地震で壊れた目覚まし時計

この資料は、2001年にヘアーショップマツナカさんより寄贈されました。震災当時、松中さんは伊丹市で美容院を営っていました。この目覚まし時計は、寝ていた部屋のなかでタンスの下敷きになって壊れました。時計の針は、地震の発生した5時46分を指して止まっています。

- こたえ ・(焼けた缶に入った)お金
- ・震災の教訓を伝えるため

■焼け溶けた缶に入った硬貨(お金)

この資料は、2002年に元本家オランダ館の館長だった大貫計一さんより寄贈されました。震災当時、長田区の菅原市場で中華料理店を営んでいた大貫さんのお家の持ちものでした。火災発生後、水が出ず、お店は48時間も燃え続けたそうです。そのため、割れずに外の缶が溶け、硬貨がくっついて、今も固まっています。

これらは阪神・淡路大震災の教訓を伝える「震災資料」として、人と防災未来センターに保存されています。

被災地の生活



鉄道、道路、ライフライン

大きな災害が起こると、日々の生活を支える鉄道・道路などの交通機関やライフライン(水道・電気・ガスなど)も使えなくなります。

鉄道が不通になると、徒歩や自転車^{じゆうたい}で通勤・通学しなければなりません。道路が寸断すると交通渋滞^{じゆうたい}が生じます。

水道から水が出なければ、給水車が出勤し、人々は器を持って給水車の列に並び、水を入れ、運びます。電気がつかなければ、懐中電灯^{かいちゆうとう}やろうそくを使って灯りをともし、都市ガスが止まれば、カセットコンロなどを使い、調理をします。

0000287-001003



阪急三宮駅周辺の被災の様子(1995年/神戸市中央区)

助け合い

さまざまなものが失われ、人手も物資も足りない被災地^{ひさいち}では、人々が助け合いの活動を行います。これを「共助^{きょうすけ}」と呼びます。そして、被災地の内外からボランティア^{ボランティア}が集まり、救援物資^{きゆうえんぶし}が届けられ、被災地のくらしに足りないことをみんなで考え、補い、支える活動も始まり、広がります。

こうした取り組みは、被災直後^{ひさいち}だけでなく、避難所^{ひなんしょ}、応急仮設住宅^{おうきゅうかしかく}、恒久住宅^{こうきゅうたく}と住まいが移りかわっても、被災者^{ひさい}が元どおりの生活を取り戻すまで、さまざまな形で続いています。

日頃から、自分が暮らす地域の人々とあいさつをし、コミュニケーション^{コミュニケーション}を交わすことは、いざというときの助け合いにもつながります。

1

阪神・淡路大震災の際、水道・電気・ガスのなかで最も早く全戸復旧したのは何だろう？

2

阪神・淡路大震災の被災地で困ったことは何だろう？次の中から選び○で囲もう。

トイレが汚い ほこりでノドが痛い
食べものがない 道路が危ない
風呂に入れない 携帯電話が使えない

3

阪神・淡路大震災でボランティアに訪れた人々は何をしたのだろう？思いつくことを書いてみよう。

当時のモノから震災について考えてみよう



これは何だろう？

何に使われた？



これは何だろう？

どこで配られた？



被災地の生活



鉄道、道路、ライフライン

阪神・淡路大震災では、鉄道や道路が使えなくなったほか、約260万戸が停電、約130万戸が断水、約86万戸で都市ガスが止まるなど、日常的に市民生活を支えている機能(ライフライン)がストップしました。

家屋やビルの倒壊によって大量のガレキが発生し、生活環境の悪化のほか、ライフラインの復旧工事の妨げにもなりました。

まず、電気は最も早く、6日後に全戸で復旧しました。ガスは、低い圧力でガスを流し、検知器でガス漏れを確認し、一つずつ損傷部を突き止めてから補修作業にかかったため復旧に時間がかかり、全戸で復旧が完了したのは84日後。それまでは、ガスの代わりに電気調理器やカセットコンロが使われました。

水道は、地震発生当日の夕方から給水車が出勤しましたが、道路も被害を受けていて、給水活動は十分には進みませんでした。地域によって差はありましたが、全戸で復旧が完了したのは90日後でした。

0000393-001001



給水活動の様子
(1995年2月/神戸市東灘区)

1

電気

こたえ

多くの家庭で、まず電気が復旧しました。ガスと水道の全戸復旧には約3カ月かかりました。

0000288-005028

たかとりコミュニティセンター
(たかとり救援基地) /
炊き出し用電気釜



こたえ

・電気なべ
・炊き出し

■電気なべ

この資料は、長田区海運町にあるカトリックたかとり教会で活動した「たかとりコミュニティセンター(旧たかとり救援基地)」から2000年に寄贈されました。被災地の生活では、ガスの復旧が遅れ、電気で動く製品が活躍しました。「仁川カトリック教会」から支援物資としてたかとり教会に送られた電気なべは、炊き出しに使われました。

2

トイレが汚い

ほこりでノドが痛い

こたえ

食べものがない

道路が危ない

風呂に入れない

これは困ったことの一例です。多くの人々が、トイレ、風呂、食事で不自由な生活を強いられました。ガレキで車が通れない道路では、自転車やバイクが多く使われました。壊れた建物の解体作業などで空気が汚染され、みんなマスクをしていました。当時、携帯電話はまだ普及していませんでした。



助け合い

阪神・淡路大震災では、地域の人々がさまざまな助け合いの活動を行いました。隣の家が倒れていれば、閉じ込められた人を救助しました。自分の家にあった食料を、近所の人と分け合って食べました。避難所の運営を地域の人々が行ったところもあります。

そして、ボランティアが全国からかけつけ、その数は1年間で延べ約138万人に達しました。この震災をきっかけに災害ボランティア活動が定着していったことから、1995年は「ボランティア元年」と呼ばれています。

3

食料・物資の配給

避難所運営

こたえ

高齢者の見守り

ガレキの片づけ

(例)

子どもと遊ぶ

炊き出し

ボランティアは「何かお手伝いできないか」と自分で考え、被災者の困っていることを聞いて活動することも大切です。

0000439-000001

A氏/避難所で配られた
水詰めビール瓶



こたえ

・(水の入ったビール)瓶
・(西灘小学校の)避難所

■水の入ったビール瓶

この資料は、神戸市灘区のAさんから2009年に寄贈されました。震災当時、暮らしていたマンションが半壊になって、翌日に西灘小学校の避難所へ行きました。ここで支援物資として配られた水の入ったビール瓶をAさんはとてもありがたく感じました。

それからずっと置いていたこの瓶をどうするか悩み、人と防災未来センターで当時の思いを伝える震災資料になればと思いついたそうです。

仮住まい



避難所から応急仮設住宅へ

災害で被害を受け、または被害を受けるおそれのある人は、最寄りの安全な場所に避難します。このため、自治体により一時的な生活の場として、避難所が設置されます。

大きな震災では、家が倒壊、焼失したり、ライフラインが途絶したり、余震が頻繁に起こったりするため、多くの人々が避難し、避難所での生活が長期化することもあります。水、食料、生活必需品の提供や、トイレ、風呂をはじめ避難所の居住環境の確保、高齢者や乳幼児といった要介護者への配慮などさまざまな課題が生じ、力を合わせて苦しい生活を乗り切ることが求められます。

災害で家を失った人が住宅を再建するには時間がかかるため、自治体から、住宅再建までの仮の生活の場として、プレハブの応急仮設住宅が無償で供与されます。なお、現在は、自治体が民間賃貸住宅を借り上げ、応急仮設住宅として供与する場合もあります。

小学校体育館での避難所生活(1995年/北淡町※現淡路市)

9000013-001023



1 避難生活に使われる場所や施設はどれだろう? 次の中から選び○で囲もう。

道路 駅 学校 大きな家の庭
公共施設 公園・ひろば 公民館

2 阪神・淡路大震災で仮設住宅はいつまであったのだろう? 正しい時期を○で囲もう。

①1年後 ②3年後 ③5年後 ④7年後

応急仮設住宅のくらしの工夫

応急仮設住宅での生活は、数ヵ月から数年に及ぶこともあり、入居者の生活環境の向上、高齢者等の生活支援、コミュニティづくりなども課題となります。

応急仮設住宅は規格などが決められているため、実際に暮らしてみると不便な点も見つかります。高齢者や障害者などにとっても少しでも暮らしやすくするために、いろいろな工夫が必要です。また、もともと近くに住んでいた人たちが、応急仮設住宅で離ればなれにならず集まって生活できるようにすることも望まれます。

9000003-001009

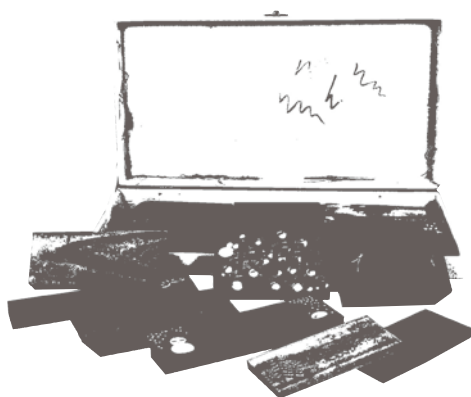


(1995年12月/尼崎市)

3 上の応急仮設住宅を見て、生活していて困るかもしれないと思うことを書いてみよう。

あなたならどうする?

当時のモノから震災について考えてみよう



これは何だろう?

何でできている?

どこにあった?



仮住まい



避難所から応急仮設住宅へ

阪神・淡路大震災の際の避難者は、兵庫県全体では地震発生から6日目の1月23日がピークとなり、1,153箇所に31万6,678人が避難していました。学校や公共施設などがあらかじめ避難所に指定されていましたが、指定外の施設、公園などに身を寄せる人々もありました。

応急仮設住宅の建設が進み、災害救助法に基づく避難所は1995年8月20日で廃止されましたが、その後もその場所にとどまったり、待機所やテントで暮らす人々もありました。

応急仮設住宅は速やかに建設が決まり、工事が進められ、兵庫県では1995年8月11日には計画戸数4万8,300戸のすべての建設が完了しました。最初の入居は1995年2月2日。応急仮設住宅の供与期間は原則として建築工事が完了した日から2年以内と決められていますが、入居者の恒久住宅の再建、移行には時間がかかりました。このため3回の期間延長措置がとられ、すべての入居者が退去したのは、5年後の2000年1月14日になりました。

1 学校 公共施設 公園・ひろば 公民館

自分の家の近くの避難所を、市や町の発表する広報紙などで確認しましょう。

2 ③5年後 災害復興住宅が建てられ、移転支援も行われ、 応急仮設住宅はすべて解消されました。

応急仮設住宅のくらしの工夫

応急仮設住宅で不便なことがあっても、入居している人々は当初、勝手に手を加えてはならないと思っていました。

社会福祉協議会の呼びかけもあって、1995年夏頃から応急仮設住宅の修繕・改善のためのボランティア活動が始まりました。ボランティア、保健・医療関係者、建築関係者の協力を得て、玄関に庇をつけたり、段差に踏み台を作ったりしました。水道の蛇口の水漏れの修理も行われました。トイレや浴室の手すり、エアコン、集会所やふれあいセンターなどの設置も、応急仮設住宅のくらしで気づいたことを踏まえた工夫や改善の一例です。

3 こたえ (例)

- ・見分けがつかない
→表札をつける、目印を作る
- ・玄関の段差が高い
→踏み台を作る、スロープをつける
- ・暑そう
→エアコンを設置、すだれをつける
- ・部屋が狭い
→みんなで集まる場所をつくる

1600012-000012



淡路島の
一宮仮設住宅
(1996年7月/
一宮町
※現淡路市)

- こたえ
- ・手作りの表札
 - ・タンスの廃材、カマボコ板
 - ・応急仮設住宅

■応急仮設住宅の手作り表札

この資料は、震災ボランティア活動をしていた長岡照子さん(西宮市)より2005年に寄贈されました。

応急仮設住宅は同じかたちの玄関が並んでいました。表札がないと、誰が住んでいるかわかりません。

長岡さんは、捨てられたタンスを切った板を使って、震災からひと月後の2月末に表札を作りはじめました。まずは1ヵ月で約30個を作り、応急仮設住宅の住民に配りました。それから、材料の板を探していると、うどん屋さんがカマボコ板をくれたので、たくさん作ることができたそうです。

色を塗って絵を描いた板を自転車で運び、希望者の名前をその場で書いて配りました。

0000395-002001

長岡照子
(西宮・地域たすけあい
ネットワーク)
手作り表札(1)



0000395-001001



(1995年/西宮市)



(1997年/西宮市)



と も ど 活力を取り戻す



住宅の再建

家を失った被災者の多くは、避難所、応急仮設住宅を経て、再び恒久住宅を建てる努力をします。住宅は個人のもので、自力での再建が原則とされています。しかし支援があっても再建が進まない地域もあり、その間に人口が減ってしまうこともあります。自力で住宅を確保することが難しい人々には、災害復興公営住宅が建設、供給されます。

復興を早く進めるためには、法律の整備や支援のしくみが重要です。1998年に制定された被災者生活再建支援法は、住宅再建に対する公的な支援が進むように、その後、改正が重ねられました。

なお、兵庫県では、2005年9月から兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)を設けています。住宅の所有者が日ごろから少しずつお金を出し合って、災害時に備える相互の助け合いのしくみです。

地域商業の復興

商店街・小売市場は、被災による環境の変化、周辺の人口の減少などによって、営業が難しくなります。営業再開のための支援のしくみと、地域商業の関係者や住民が一体となった取り組み、まちづくりへの努力が必要です。

3400117-002335



仮設店舗パラー市場竣工風景
(1995年6月/神戸市長田区)

2 阪神・淡路大震災によって被災した商店街・小売市場には、営業を再開できない店舗や売り上げが減った店舗もありました。思いつく理由を書いてみよう。

1 阪神・淡路大震災によって被災した住宅も、次第に再建されまちが復興していきました。新しいくらしの場を充実したものにするためには、何が必要だろう？ 思いつくことを書いてみよう。

子どもたちの生活の回復

震災時には学校の施設が被災したり、避難所になったりすると授業ができなくなります。学校にいけないことで、生活のリズムが狂い、元気を失う子どもたちがいます。避難者を受け入れながらも、学校の早期再開ができるよう、日ごろから行政、地域、学校が共に体制を整えておくことが必要です。

家族を失うこと、死傷者を目の当たりにすること、自宅の倒壊などの経験は、子どもたちにも大きな精神的ショックを与えます。不眠、食欲不振など、さまざまな症状があらわれることがあり、長期的・継続的なこころのケアが求められます。学校における教職員、スクールカウンセラー、専門機関の対応に加えて、家庭や地域との連携が求められます。

9000003-001025



東灘小学校仮設プレハブ教室と避難所のテント村風景
(1995年3月/神戸市東灘区)

3 阪神・淡路大震災で、転校を余儀なくされた児童生徒は、何人いただろう？ 近いと思う数字を○で囲もう。

- ①5,600人 ②16,000人
③26,000人 ④46,000人

当時のモノから震災について考えてみよう

1400224-001001



これは、被災地NGO協働センターが阪神・淡路大震災後の1997年から売っている「まけないぞう」です。

どんな材料でできている？

誰が作っている？



と もど 活力を取り戻す



住宅の再建

阪神・淡路大震災では、約4万2,000戸の災害復興公営住宅等が供給されました。公団・公社住宅や民間住宅も含めた住宅供給戸数は、約17万3,000戸に上りました。

住宅が再建され、まちが復興していくなかで、一人ひとりがいきいきと暮らせる地域コミュニティの形成も大切です。日々のくらしでの仲間や生きがいが、人々の活力になります。

震災によって移り住んだ先でも自治会や地域活動に参加できるように、住民同士の交流場所としくみづくりや、それらの支援も進められました。各地でまちづくり協議会が立ち上げられ、新しいまちづくりに向かった取り組みが行われました。

HAT神戸の
災害復興公営住宅と
人と防災未来センター
(2005年11月/
神戸市中央区・灘区)

0000287-001005



1 人と人との交流 生きがいを見つける こたえ (例) 自治会や地域活動に参加する

災害時に限らず、仲間をつくり、生きがいを持って暮らすことは大切です。近所の方に挨拶をしたり、地域活動に参加するなど、日頃からコミュニティの一員としての意識を持って暮らしましょう。

地域商業の復興

阪神・淡路大震災で、商店街・小売市場は、被災地域内の半数近くが全半壊または一部損壊の被害を受けました。仮設の店舗で営業を再開しても、地域の人口減少や、経営者の高齢化、大型店の進出などから廃業する商店も少なくありませんでした。営業の早期再開の支援、まちなぎわいの創出、空き床・空き店舗対策などさまざまな取り組みのために、阪神・淡路大震災復興基金が活用されました。

2 2 こたえ (例)

店舗が倒壊した
人口が減った
経営者の高齢化が進んだ
大型店が増えた
ネット販売が普及してきた など
地域の人口が減ると、店舗も売り上げが減り、閉まってしまう例もあります。地域の市場や商店街は、人と人とのふれあいをつなぐ役割も持っています。

子どもたちの生活の回復

阪神・淡路大震災で、被災した公立学校はすべて約1ヵ月後までに授業が再開されました。しかし、避難所となっている校舎や、プレハブの仮設校舎で授業を行った例も見られました。兵庫県内の児童生徒も、被災によって約2万6000人が元の学校から離れて転校しました。転出先は全国にわたり、家族がばらばらに暮らすこともありました。

心の健康に影響があるとみなされた児童・生徒は、被災地全体で多い年には4,000人を超えました。学校では、スクールカウンセラーや教育復興担当教員を配置して、こころのケアや防災教育にも力を入れました。被災児童・生徒に継続的に関わりを持ち、安心感を与え、心の健康を回復させようと、関係機関が連携した取り組みが進められました。



本山第二小学校仮設校舎
(1996年12月/神戸市東灘区)
写真提供:神戸市

3 3 こたえ

③ 26,000人

こたえ ・(支援物資の)新品のタオル ・被災者

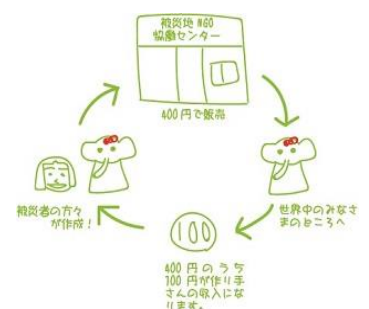
■まけないぞうのしくみ

「まけないぞう」は、阪神・淡路大震災後、KOBEO発「生きがい協働事業」として、1997年に始まりました。

「一本のタオル運動」で集められたタオルから、被災者がぞうの形をした壁掛けタオルを作って販売しています。新潟県中越地震や東日本大震災の被災地にも広がっています。

まけないぞうを購入することは、被災地のコミュニティ支援、生きがいづくり、仕事づくりの支援になります。

定価400円のうち、100円が製作者の直接収入となります。また、東日本大震災から「まけないぞう基金」をスタートさせ、50円を基金として積み立てて、被災地に還元しています。その残りの250円から材料費、輸送費、通信費などを引いた額が被災地NGO協働センターの収入になり、被災地支援のためのさまざまな活動に使われています。



(参考) 被災地NGO協働センターHP
(<http://www.ngo-kyodo.org/makenaiizou/index.html>)

ぼくの わたしの くらしと災害

いま災害が起こったら、
あなたはどうする？



ひさいち
被災地のくらしのなかで、
あなたができることは
何だろう？

災害に備えるために、
ひごろ
日頃のくらしのなかで
できることを考えてみよう！



さっそく
やってみよう！



A series of horizontal blue lines spanning the width of the page, providing a space for writing.

阪神・淡路大震災の被害

阪神・淡路大震災をもたらした大きな地震は、1995年1月17日(火)午前5時46分、淡路島北部の深さ16kmを震源に発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは7.3。

地震による揺れは、兵庫県南部の神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、淡路島などで特に強く、震度7を記録しました。

古い木造家屋やビルなど、多数の建物が倒壊し、火災の同時発生によっても大きな被害が生じました。

災害救助法指定区域外(兵庫県内)の被害状況

死者/3
負傷者/71
家屋被害/28

死者/39
負傷者/870
家屋被害/2,274

死者/13
負傷者/162
家屋被害/1,501

死者/0
負傷者/17
家屋被害/455

死者/0
負傷者/14
家屋被害/67

死者/4
負傷者/44
家屋被害/680

死者/0
負傷者/4
家屋被害/137

死者/0
負傷者/5
家屋被害/78

死者/0
負傷者/5
家屋被害/314

(兵庫県調べ)※市町名は震災当時

死者/1
負傷者/19
家屋被害/118

神戸市
死者/4,564
負傷者/14,678
家屋被害/112,925

死者/117
負傷者/2,201
家屋被害/12,872

死者/4
負傷者/551
家屋被害/3,282

死者/22
負傷者/2,716
家屋被害/8,894

死者/49
負傷者/7,145
家屋被害/41,690

死者/1,126
負傷者/6,386
家屋被害/35,264

死者/443
負傷者/3,175
家屋被害/7,486

…震度7の地域

[凡例]
死者/(人)
負傷者/(人)
家屋被害/(棟)

地震の規模

マグニチュード ▶ **7.3** 最大震度 ▶ **7**

被害状況 (平成18年5月19日確定)

兵庫県	[全国]
○死者数……………6,402	[6,434]
○行方不明者数……………3	[3]
○負傷者数……………40,092	[43,792]
重傷者10,494	重傷者10,683
軽傷者29,598	軽傷者33,109
○家屋被害(全壊・半壊)	
世帯数……………439,608	[460,357]
棟数……………240,956	[249,180]

避難者数

○約32万人(ピーク時)

ライフライン網の被害

○停電 約260万戸
○断水 約130万戸
○ガス停止 約86万戸

もっと学びたい人へ

このノートは、阪神・淡路大震災の経験から震災について学んでいただくきっかけになることを願って作成しました。

より詳しい情報は、下記の参考文献やホームページをご覧ください。

- ・地震調査研究推進本部『地震がわかる!』(地震調査研究推進本部HP)
- ・兵庫県『阪神・淡路大震災—兵庫県の1年の記録』1996年
- ・兵庫県『伝える[改訂版] 1.17は忘れない—阪神・淡路大震災20年の教訓—』2016年
- ・内閣府(防災担当)、総務省消防庁、気象庁、兵庫県等のホームページ





阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 (HAT神戸内)

TEL.078-262-5050 (観覧案内)

ホームページアドレス <https://www.dri.ne.jp>

お問合せ ▶ 資料室 TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

資料室では、阪神・淡路大震災に関する写真資料、モノ資料、紙資料等を
収集・保存しています。

資料の閲覧・利用については、資料室にお問合せください。
